

職業興味と欲求(2)*

玉 瀬 耕 治**

(心理学教室)

職業興味は、いわば欲求の現われであると考えられるが、従来、どのような欲求とどのような職業興味とが結びついているのかあまり明確にされていない。理論的には、たとえばRoe(1957)のように、幼児期に発達した欲求が成人してからの職業選択に結びつくと考える研究者もいるが、具体的な個々の欲求と職業への指向性との関係はあまり明らかではない。前回の報告でわれわれは、保育専門学院の女子学生を対象にして職業興味と欲求の関係を検討した(玉瀬, 1975 a, b)。その結果、2つの職業興味群がそれぞれ異なる欲求群と対応していることが明らかにされた。すなわち、機械、計算、科学などの物的な興味は、自律、秩序、持久、達成などの目標指向的な欲求と正の相関があり、説得、奉仕などの人的な興味は、支配、親和、求護などの対人関係指向的な欲求と正の相関があったのである。これらの結果は、一応常識的には納得できるが、女子学生だけについて得られたものであるもので、あまり一般化することはできないといえる。そこで本研究では、前回の結果が異なる標本集団についてもあてはまるかどうかを確かめるために、前回と同年齢の工業高等専門学校男子学生を対象にして追試を行なった。

方 法

被験者 奈良工業高等専門学校機械科4年生の男子学生51名を被験者にして、昭和50年6月に2種類の検査を実施した。

材 料

- (1) 田研式職業興味検査……この検査は3つ1組の活動の中から、最も好きなものと最も嫌いなものを選ばせるようになった100組の問題からなっており、10分野の職業興味(戸外、機械、計算、科学、説得、美術、文芸、音楽、奉仕、および書記)を測定することができる。
- (2) EPPS性格検査……この検査は、欲求に基づく15の性格特性(達成、追従、秩序、顯示、自律、親和、他者認知、求護、支配、内罰、養護、変化、持久、異性愛、および攻撃)を測定するものである。それぞれの欲求は9項目ずつの陳述で測定されるが、実際には、社会的望ましさがほぼ等しい項目を2つずつ対にして(全部で225対)、そのうちどちらか1つを選ばせて測定するようになっている。

* Relationships between Vocational Interests and Needs (2)

** Koji Tamase (Department of Psychology, Nara University of Education, Nara)

結 果

職業興味検査とEPPSの相関 表1は職業興味検査の10分野とEPPSの15の欲求とのピアソン相関係数を示したものである。この表において、 r の値が.276以上であれば5%水準、.358以上であれば1%水準の有意性があるとみなされる（ただし、 $df=49$ 、両側検定）。表中で下線が引かれている値は5%水準または1%水準で有意なものである。図1は、これらの結果のうち正の有意な相関が得られたものについてまとめたものである。ここでは前回調査（玉瀬、1975 a）とはかなり異なる結果が示されているが、この点については後に考察することにする。

表1. 田研式職業興味検査とEPPS性格検査との相関 (n=51, 男子)

EPPS 興 味	達成	追従	秩序	顯示	自律	親和	他者 認知	求護	支配	内罰	養護	変化	持久	異性愛	攻撃
戸 外	-.020	-.024	.268	-.071	.101	-.070	-.191	-.044	-.132	.239	-.059	-.114	.256	-.109	.011
機 械	-.014	-.138	-.017	.187	<u>-.313</u>	.043	-.201	.077	.020	<u>.295</u>	.119	-.213	.050	.084	-.152
計 算	.080	-.108	.136	-.033	-.202	-.177	.057	.229	-.126	<u>.277</u>	-.150	-.193	-.099	.138	.075
科 学	.179	-.081	.063	.040	.162	-.020	-.127	-.067	.025	.160	-.247	-.060	.194	-.049	-.053
説 得	<u>-.279</u>	-.053	<u>-.373</u>	.258	-.054	.017	-.052	-.185	.088	-.003	.184	.143	-.173	.105	<u>-.299</u>
美 術	<u>.301</u>	.113	.040	-.094	.227	.187	-.194	.024	-.105	-.160	.058	.221	.071	-.188	-.204
文 芸	.078	.082	.097	-.165	.247	.038	<u>.336</u>	.126	-.241	-.275	-.195	.225	-.087	-.185	.012
音 楽	.209	-.205	-.262	-.058	.243	-.151	.039	-.190	-.038	<u>-.351</u>	-.145	<u>.320</u>	-.090	.270	<u>.341</u>
奉 仕	<u>-.347</u>	-.004	-.059	-.022	.087	-.098	-.037	.005	.034	.096	.266	.105	-.140	-.036	.021
書 記	-.068	.041	-.068	.019	-.164	-.070	.231	-.001	.011	-.041	-.025	-.098	-.206	.106	.102

下線の値は5%水準 ($r \geq .276$) または1%水準 ($r \geq .358$) で有意。

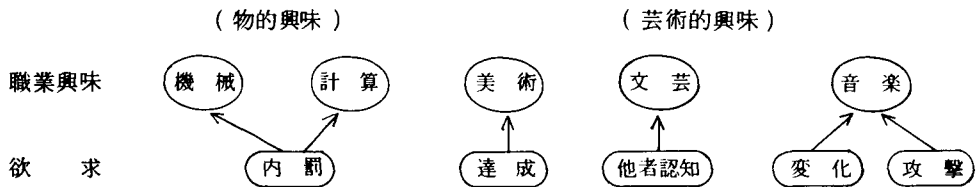


図1. 職業興味と欲求

高専学生と保育学院生の職業興味の比較 図2は、今回調査における高専学生と前回調査における保育学院生の職業興味検査の結果を比較したものである。それぞれの職業興味分野ごとに両群の差をt検査した結果が図の右端に示されている。この図で明らかなように、高専学生は保育学院生よりも、機械、計算、科学、および書記において有意に得点が高く、説得、文芸、および奉仕において有意に低い。これらの結果は、用いられた検査の妥当性を示しているといえよう。

高専学生と保育学院生のEPPSの比較 表2は高専学生と保育学院生のEPPS検査結果を示

したものである。それぞれの欲求ごとに両群の差をt検定した結果が表の下欄に示されている。この表から、高専学生は保育学院生よりも、達成、求護、および持久の得点が有意に高く、他者認知および養護の得点が低いことがわかる。

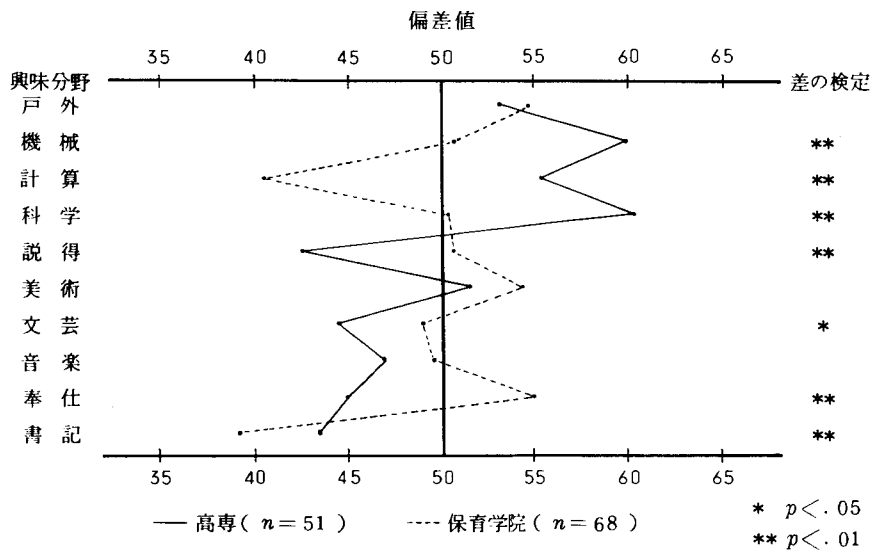


図2. 高専および保育学院生の職業興味プロフィール

表2. 高専および保育学院生のEPPS (偏差値)

n	達成	追従	秩序	顕示	自律	親和	他者認知	求護	支配	内罰	養護	変化	持久	異性愛	攻撃
高専 51	\bar{X}	50.9	51.5	47.5	49.1	47.3	49.2	47.5	51.5	46.5	52.1	46.1	52.5	54.5	50.4
	SD	9.4	8.5	7.6	10.9	9.4	7.4	8.3	8.0	8.5	9.0	9.9	8.1	8.8	9.0
保育学院 68	\bar{X}	45.2	52.2	48.4	48.6	46.5	51.1	53.1	48.5	48.7	52.9	50.7	54.2	47.2	51.8
	SD	8.2	8.7	9.0	8.1	9.7	9.1	12.0	8.2	7.8	7.7	10.8	7.9	8.4	8.8
差の検定	**						**	*			*		**		

* $p < .05$, ** $p < .01$

考 察

本研究では、図1のように2つの異なる職業興味群が、それぞれ異なる欲求と対応していることが示された。1つは前回調査(玉瀬, 1975b)でも示された機械と計算への興味で、いわば物的興味群と考えられるが、これと内罰との相関が有意であった。前回調査では物的興味は、達成、持久などの目標指向的な欲求と相関がみられたが、今回の被験者は図2に見られるように、もともと機械、計算、および科学への興味が全体として高いので、前回調査のような結果が得られなかったものと思われる。もう1つの職業興味群は、美術、文芸、および音楽への興味で、これらは芸術的興味群としてまとめることができよう。これに対応する欲求は、達成、他者認知、変化および攻撃であった。これ

らの欲求は、感受性と新奇なものへの欲求を含んでいると解釈できる。この結果は前回調査では得られなかったものであるが、2回の調査を合わせて考えると、物的興味群、人的興味群、および芸術的興味群という3つの主な職業興味群（道脇ら、1973、p.62）に対応する欲求が一応明らかにされたと考えることができよう。

高専学生と保育学院生のEPPSの結果を比較した表2を見ると、高専学生では達成、求護、および持久の得点がより高く、保育学院生では他者認知と養護の得点がより高くなっている。この結果は、高専学生は物的興味群に属する職業を指向し、保育学院生は人的興味群に属する職業を指向しているといなされるので（図2）、ある程度前回調査の結果を支持しているといえよう。しかし、この結果とよりよく適合する研究報告がWakefield and Cunningham（1975）によって示されている。彼らの研究はHollandの職業興味検査（VPI）とEPPSの関係を調べたものである。この研究によれば、VPIの探索的尺度とEPPSの達成、求護および持久は正の相関があり、VPIの社会的尺度とEPPSの他者認知および養護は正の相関がある。VPIの探索的尺度はわれわれの物的興味群に含まれ、社会的尺度は人的興味群に含まれると考えられるので（Super & Bohn, 1970, 藤本・大沢訳, 1973, p.161）、Wakefieldらの研究結果は本研究の結果（表2）とよく一致しているといえる。

要 約

高専機械科の男子学生51名に田研式職業興味検査とEPPS性格検査を実施して、職業興味と欲求の相関関係を検討した。その結果、機械と計算への興味は内罰の欲求と正の相関がみられ、美術、文芸、および音楽への芸術的興味は、達成、他者認知、変化、および攻撃と正の相関がみられた。

引 用 文 献

- 道脇正夫他 1973 職業興味の諸研究：展望と考察 職業研究所紀要5, 56 - 72.
- Roe, A. 1957 Early determinants of vocational choice. *J. counsel. Psychol.*, 4, 212 - 217.
- Super, D.E., & Bohn, M. J. Jr. 1970 *Occupational Psychology*. Wadsworth Publishing Company. (藤本喜八・大沢武志訳 1973 職業の心理 ダイヤモンド社)
- 玉瀬耕治 1975a 職業興味と欲求 奈良教育大学教育研究所紀要11, 71 - 75.
- 玉瀬耕治 1975b 職業興味と欲求の関係 心理測定ジャーナル 11(5), 1 - 5.
- Wakefield, J.A. Jr., & Cunningham, C.H. 1975 Relationships between the Vocational Preference Inventory and the Edwards Personal Preference Schedule. *J. vocational Behav.*, 6, 373 - 377.

〔付記〕 資料の収集に際し、奈良工業高等専門学校機械科の先生方にご協力いただきました。記して厚く感謝の意を表します。